

～どうする？～

先週水曜日、運動場で、児童会競技“大玉ころがし”の全校練習がありました。児童会競技は、児童会の運営委員会が中心となり、子ども主体で競技を企画し、内容を考えるものです。

この日、10月4日に体育館で練習したことを踏まえ、2～3mの間隔をあげ、紅白それぞれにペアとなって直線状に並びます。ひとつのペアが大玉を挟み、離れた次のペアへと次々と転がして渡していきます。子どもたちは息を合わせて上手に渡しているようです。

ところが、子どもたちの人数が少ないこともあり、あっという間に競技が終わってしまうのです。

そこで、体育主任の久保田先生が、子どもたちに、「競技時間がたくさんあるのに、もったいないですね。内容をもう少し工夫してみてくださいはどうか？」と投げかけました。

久保田先生の言葉を受け、翌朝、4～6年生が競技内容を見直すために、運動場にやってきました。担任が、「みんなで相談して競技を工夫するように」と声をかけます。「どうする？」「障害物を置こう」「ハードルを点々と置いた方がよくない？」「スラロームみたいにしたらどうか？」「ハードルを増やして間に置いたら」・・・このような声が子どもたちから聞こえてきました。実際に三角コーンやハードルをいくつも配置し、自分たちで競技を試しています。時々担任の助言も受けながら、**だんだん**と競技内容が固まっていきました。



その日の3時間目、児童会競技の全校練習の時間です。はじめに、4～6年生が自分たちで新たに考えた競技を児童に実演してみせました。低学年がわかったところで、いよいよ全校で挑戦です。

新たな内容は、コース途中にいくつも配置された三角コーンを、スラロームをしながら折り返し地点まで行き、また戻り次のペアに渡すというものです。

当然一組のペアが転がす距離が長くなるのと同時に、いくつか置かれた三角コーンをスラロームをしながら転がすという難易度も高くなっています。

練習後、3年生の子どもが、「前は、単純に大玉を転がすだけだったけど、今度はスラロームをしながら大玉を転がすし、転がす距離も長くなったので楽しかった」と私にお話してくれました。子どもたちも当初の案では、物足りなさを感じていたようです。高学年が知恵を出し合い、低学年も満足できる競技へと変わっています。

運動会練習に入るにあたり、「運動会本番までの過程を大事にし、“子どもを信じ” “子どもに考えさせ” “任せ” “待つ姿勢

で” 臨む」「子どもが創造し、発案する場を大事にする」ことを、職員間で確認いたしました。今後も運動会練習が続きますが、子どもたちが自ら関わり、進んで取り組んでいけるようなこのような場を大切にしたいと考えています。

「やーれさっさのどっこいしょ！」

～合いの手が1年生の教室から～

10月7日（月）2時間目は、運動会で踊る盆踊りの全校練習です。初めての練習とあって、はじめに、“どんな盆踊りの姿をおうちの人に見せたいか”について、みんなで考えました。“笑顔で” “楽しく” “はずかしがらずに”等の思いが発表され、「笑顔で楽しくはずかしがらずにがんばる盆踊りにしよう」をめあてに取り組むことになりました。

いよいよ練習です。この日は、盆踊りの先生として、地域の野上さんも来校してくださっています。子どもたちは一人一人先生から団扇を渡され、一つの円になりました。



録音された「3つ拍子」の曲が流れてきました。曲が流れると、子どもたちは、野上さんの踊りを見て確認しながら自分たちも曲に合わせて両手を左右に動かし始めました。どの子もリズムに合わせて体を動かしています。合いの手を入れる子もいます。

続いて「2つ拍子」の曲です。私も一緒に踊りましたが、曲の拍子が変わるので戸惑い、慣れるまでに少時間がかかってしまいました。しかし、子どもたちは異なる拍子もなんのその。野上さんと一緒にリズムに合わせて踊っています、子どもたちは、昨年運動会で盆踊りを踊り、夏休み中にあった地域の公民館学校や横岳夏まつりで盆踊りを踊った子もいたそうで、リズムが子どもたちの体にしみ込んでいるようです。ただ、細部を見ると、足の動かし方が難しい面もあり、曲が終わった後に、野上さんが足の動かし方を丁寧に指導してくださいました。



この時間の最後に「今日の練習では踊りを間違えてしまったけど、本番は間違えずに踊りたいです」「踊りはうまくできたけど、合いの手の声が小さかったので、大きな声を出したいです」・・・と、子どもたち各々が、この時間の踊りの出来栄を客観的に振り返りました。

翌日、1年生の教室から盆踊りの曲と、子どもたちの声が聞こえてきました。なんと、合いの手の練習をしているのです。合いの手の言葉が書かれてある用紙を見ながら、「あっよいさよいさ！」「やーれさっさのどっこいしょ！」とリズムよく正確に合いの手を入れています。とても上手です。このように、「笑顔で楽しくはずかしがらずにがんばる盆踊り」になるよう、子どもたちは練習を重ねています。